

4. 自費出版事情… ～会員便り～No.23

☆ 知っとこ 岐阜 ☆ その6



□□ _____ □□

1. トピックス …第22回日本自費出版文化賞大賞の
「NO NUKES ビキニの海は忘れない」が
ふるさと自費出版大賞も受賞！

□□ _____ □□

全国各地の出版文化を発掘し、その促進を図り、自費出版への関心を高めることなどを目的とした第8回ふるさと自費出版大賞（全国新聞社出版協議会主催）が10月24日発表され、岡村啓佐さんの「NO NUKES ビキニの海は忘れない」（高知新聞総合印刷）に決まった。賞金は30万円。（共同通信）

□□ _____ □□

2. お知らせ …2019日本自費出版フェスティバルが台風で延期
12月15日（日）開催

□□ _____ □□

10月13日に開催予定されていましたが「2019日本自費出版フェスティバル」（第22回日本自費出版文化賞表彰式と第1回日本自費出版即売会）が台風の影響で12月15日（日）に延期になりました。開催時間や内容については変更ありませんので、ボランティアの方含め、皆様のご来場をお待ちしています。

□□ _____ □□

3. お知らせ …第33回自費出版アドバイザー養成講座も延期
12月14日（土）に開催 参加募集中

□□ _____ □□

第33回自費出版アドバイザー養成講座も台風のため延期しました。延期日は、同じく延期した2019日本自費出版フェスティバルの前日の12月14日（土）14：20に開催されます。今回は「大手出版社の自費出版編集者の仕事」で、小学館スクウェア元社長で編集を経験した大山邦興氏が、自費出版編集の仕事にどのように向き合っているのかを語ってもらうセミナーです。今回も見逃せない内容です。

申込は事務局か
アドバイザーの会事務局長の宮川（miyagawa@bun-shin.co.jp）まで。

□□ _____ □□

4. 自費出版事情 … ～会員便り～ No.23

□□

□□

株式会社マルワ
増井 富枝代

いままで「随筆」「句集」「授業用テキスト」「ビジネス本」など
さまざまなジャンルの書籍の制作に携わらせていただきました。

私が書籍を作る段階で一番気を遣いながらも楽しいのが書式作成の
部分です。
とりかかる前に「どんな内容なのか」「書かれた方は女性なのか男性なのか」
「読まれる方の年齢は」などの情報をできるだけ集めるようにしています。

書かれた方や読まれる方を想像しながら、随筆なら「やさしいフォントで」
とか、句集なら「筆文字にしてみよう、余白は広めで」とかビジネス本なら
「判読性の高い書体にして、行間も読みやすくして」とか、読まれる方が
高齢であれば「文字を少し大きめに」など、あれこれ考える時間はとても楽しいです。

まだまだ未熟ではありますが、お客様に喜んでいただける本づくりを
目指していきたくと思います。

□□

□□

☆ 知っとこ 岐阜 ☆ その6

□□

□□

しっとこ岐阜 その6
岐阜が舞台の小説・映画 えとせとら

岐阜とってまず思い浮かべるのは、長良川の鵜飼や世界遺産に
登録されている白川郷ではないでしょうか？
しかしここ最近、若者を中心に「映画のロケ地」としての岐阜が
注目を集めています。

実は昔から岐阜は小説や映画の舞台になることが意外と多いのです。
古くは、川端康成の初恋と失恋を描いた短編『篝火・非常・南方の火』や、
司馬遼太郎の『国盗り物語』、島崎藤村の「夜明け前」、宇野千代の
『薄墨の桜』など、素敵な作品がたくさんあります。
また、西村京太郎のトラベルミステリーの中にも、高山線や特急ひだを
モチーフにした作品がたくさんあります。

2016年に公開され、全国的に大ヒットした新海 誠監督の
長編アニメーション映画『君の名は。』の舞台が飛騨高山というのは
有名な話です。
また、京都アニメーション制作の『聲の形』は大垣市が舞台です。
どちらの映画も実際の場所が作中で細かく描かれていることなどから、
日本のみならずアジア各国からも多くのファンが聖地巡礼の旅として
現地を訪れています。

次回から、私がお薦めする「岐阜が舞台となった物語」を何回かに分けて
ご紹介したいと思います。
かなり独断と偏見になりますがそこはお許してください。

株式会社 岐阜文芸社 飯尾みゆき

★あしがき

実は私はあの台風に押されるように日本を出国しました。
幸いなことに時刻の乱れもなく往復することができました。
目的はサンフランシスコとロスアンゼルスでのサステナブルビジネス視察
でした。
国連で採択されたSDGsを始め、昨今はよく話題に上る持続可能社会の実現。
自費出版を含めて、文字や写真で残すことは大事な文化の伝承。
私たちネットワークの活動も持続可能社会をつくる活動のひとつだと思います。
デジタルで残すことも可能ですが、やはりカタチあるもので残したいですね。

今回の自費出版事情は弊社の編集担当の社員にお願いしました。
作り手の感性は、何十年先も何百年先もAIが及ばないものだと思っています。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

お気づきの点、掲載情報、はたまた私への激励のお言葉がございましたら
yumi@maruwanet.co.jp まで、お願いいたします。